

学会記事

第22回徳島医学会賞及び第1回若手奨励賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期学術集会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなり、若手奨励賞は第238回徳島医学会平成20年度冬期学術集会（平成20年2月15日、長井記念ホール）から設けられることとなりました。徳島医学会賞は年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各期ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名～2名に贈られ、若手奨励賞は応募演題の中から最も優れた研究に対して1名に贈られます。

第22回徳島医学会賞は次の2名の方々の受賞が決定し、第1回若手奨励賞は次の1名の方に決定いたしました。受賞者の方々には第239回徳島医学会学術集会（夏期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は次号に掲載予定です。

徳島医学会賞 (大学関係者)



氏 名：西岡将規 にしおかまさのり
生 年 月 日：昭和47年10月29日
出 身 大 学：徳島大学医学部医学科
所 属：徳島大学大学院ヘルスバイサイエンス研究部器官病態修復医学講座消化器・移植外科学分野

研 究 内 容：microRNAによる直腸・肛門管癌に対する化学放射線療法の効果予測
受賞にあたり：

この度は、第22回徳島医学会賞に選考していただき、誠にありがとうございます。選考委員の先生方をはじめ関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

microRNA (miRNA) は20-25塩基程度のタンパク質をコードしない non-coding RNA です。近年、miRNA が癌の発生や進展、分化に関与することが相次いで報告

され、癌抑制遺伝子や癌遺伝子などの制御において重要な役割を担っていることが示唆されています。一方、直腸癌に対して肛門温存、局所再発抑制のために術前化学放射線療法 (CRT) が行われていますが、その効果予測が問題となっています。今回、術前 CRT (S-1 80mg/m²/day+Radiation 40Gy) を施行した直腸・肛門管癌22例を対象とし、CRT 前の腫瘍の生検組織で821gene について miRNA microarray 解析を行い、CRT の組織学的効果および RECIST と比較検討しました。術前 CRT の組織学的効果は grade 1 a が4例、grade 1 b が3例、grade 2 が13例、grade 3 が2例で奏効率 (grade 2, 3) は68%でした。Responder (grade 2, 3) では miRNA 142, 223が有意に高発現していました。RECIST では PR が14例、SD が8例で奏効率は63%でした。PR 症例で miRNA 223が有意に上昇し、miRNA 17, 20, 92, 106 が有意に低発現していました。

今後、さらなる miRNA に関する詳細な検討を行うことで直腸・肛門管癌に対する CRT の効果予測を可能とし、個別化治療に結びつけたいと考えています。

最後になりましたが、本研究・活動を行うにあたり、多くの方々の御指導、御協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

(医師会関係者)



氏 名：吉岡一夫 よしおかかずお
生 年 月 日：昭和32年2月1日
出 身 大 学：徳島大学医学部医学科
所 属：徳島市医師会救急防災委員会、田岡病院

研 究 内 容：南海・東南海地震などの大規模災害に対する徳島市医師会の取り組み

受賞にあたり：

この度は、第22回徳島医学会賞に選考していただき、誠に有り難うございます。選考委員の先生方をはじめ、関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

阪神大震災を含め、最近多数の大きな地震が発生し、南海・東南海地震などの大規模災害の30年以内に起きる可能性がかなり高いと報告されています。徳島市医師会は最近5年間に3つの change を致しました。1. それまで6カ所の応急救護所でありましたが、水の都徳島で

あることから、橋がすべて倒壊したことを想定して16カ所の応急救護所に変更しました。2. 徳島市に陳情して、各々の応急救護所に応急救護セット（JM-1）を設置して頂きました。3. 各々の地区の応急救護所に於いて、その地区の住民、消防、医師、看護師が集って参加型の訓練をはじめました。今後ともこれらの継続し、公助が到着するまでの自助、互助がいざというときにできるように努力して参りたいと存じます。

最後になりましたが、本取り組みを行うにあたり、多くの方々のご指導、ご協力、ご助言を頂きましたことに厚く御礼申し上げます。

若手奨励賞



氏 名：仁木真理子
 生 年 月 日：昭和56年5月9日
 出 身 大 学：高知大学医学部医学
 科
 所 属：徳島大学病院卒後臨床研修センター

研 究 内 容：右手指に急速に壊疽性病変を生じた抗リン脂質抗体症候群の1例

受賞にあたり：

この度は、徳島医学会第1回若手奨励賞に選考してい

ただき、誠に有難うございます。選考して頂きました先生方並びに関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。2年間の締め括りとしてこのような発表の機会を得、素晴らしい賞をいただき大変光栄に思います。

この症例は皮膚科ローテート中に経験した非常に印象に残る1例でした。時に皮膚症状が全身疾患の初発症状として出現すること、また視診、触診、身体診察の重要性を認識しました。

すべての臓器は繋がっている。これを常に念頭に置き、診断、治療、そして患者さんのQOLの向上へと発展させていくことがいかに重要かということを感じました。

私たちは初期臨床研修制度必修化において、短期間ではありますがさまざまな科をローテートさせていただきました。この経験を生かし、専門科へ進んだ後も、多面的に物事を考え、診断・治療ができる医師になりたいと思います。

最後になりましたが、本活動を行うにあたり、多くのご指導、ご助言をいただきました荒瀬教授、久保准教授、皮膚科学教室の先生方に感謝いたします。

そして今回の発表に加え、初期臨床研修において右も左も分からない私達研修医を支えていただき、応援していただいた卒後臨床研修センターの谷先生、西先生、山本先生に厚く御礼申し上げます。